



今回紹介するのは、漫画家ますむらひろしの作品です。彼の作品の舞台は、人間と同じくらいの大きさの、しゃべるネコやウサギたちが人間と一緒に暮らす町。温泉に入ったり、かまくらの中で餅を食べたりと、どこか日本らしい暮らしを送る主人公たちが、珍しい生き物と出会ったり、古代文明の謎を解いたりする。そんなちょっと不思議な童話風ファンタジーの世界が描かれています。音楽や酒を愛し、自然を大切にしながらのんびりと生きる主人公たち。彼らの生き様からは、作者の哲学である「自然の一部として生きること」「自分らしさをなくさないこと」の大切さが伝わってきます。

“ファンタジー”と聞くと、ふわふわとした夢のようなことばかり描いたものを思い浮かべるかもしれません。しかし、彼の作品にはそれだけではない骨太さが

# ますむらひろしの世界



朝日ソノラマ・権成社・メディアファクトリーなど、あわせて6社から作品が出版されています。

## プロフィール

山形県米沢市生まれ。「アタゴール」シリーズを始め、**夢降るラビットタウン・コスモス薬園記・オーロラ放送局・カリン島見聞記・アンダルシア姫・惑星ミナナ**など数々の作品を世に生み出す。「アタゴール玉手箱」で第26回日本漫画家協会賞大賞受賞。

あります。故郷山形の森を愛し、温かい目で見守る彼には、「常に科学は自然に添って、自然の中に存在しなければならない」という理想があります。長い歴史の中で、科学は結果として自然を少しずつ壊しながら進んできました。主人公たちが語る「スピード重視の文明社会や自然を無視して進もうとする科学への批判」は、私たちをはっとさせる痛烈さを持っています。「この星に生まれたすべての命は、自然を母としてのみ生存できる。そのことを知るために科学はある。もし科学が海・大気・土を汚しながら進んでいくとすれば、それは科学と呼ぶにはあまりにも下等である」。どの作品にも、そんな彼の思いが込められているの

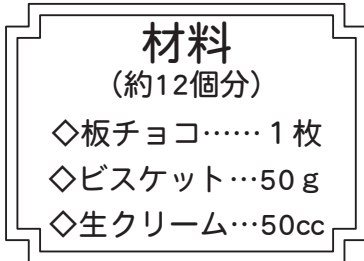
です。

「ゆっくりと自分自身のスピードで生きるために」彼は自由な発想で、理想とする“自然派科学”の様々なアイデアを生み出します。植物細胞と動物細胞が融合した「牛肉草」、太陽系の星の配列通りに材料を混ぜ合わせて作る「コペルニクスジュース」。読む人によってはくだらないと思うかもしれませんが、でも、自然の仕組みからヒントを得て新しく何かを生み出すというこの発想が、これから科学の研究の中でもっと活かされていくといい、と思います。

ますむらひろしの織りなす“自然派科学”に彩られたファンタジーの世界をぜひ一度味わい、彼の放つメッセージを受け取っててください。

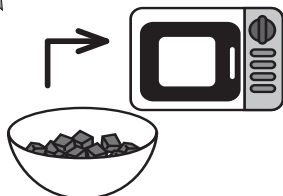
(ココアリキュール)

## 「生き物はみな、自分の時間を生きなさい」



「手作りチョコって面倒そう…」と思っている人はけっこう多いのではないのでしょうか？ 今月は電子レンジを使って作る簡単なトリュフをご紹介します。材料も手軽に揃えられるものばかり。ぜひお試しください。(はびねす)

## かんたんトリュフ



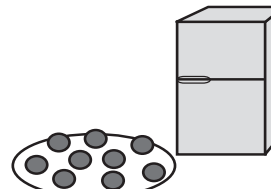
①板チョコを細かく割り、レンジで30秒ほど加熱して少し溶けた状態にする。



②砕いたビスケットと①をボウルに入れる。



③生クリームをレンジで1分間加熱し、②に入れて混ぜる。



④一口大に丸め、冷蔵庫で2時間ほど冷やし固めてできあがり。あればココアパウダーをまぶすと良い。

はみだし  
すてーじ

はー。首いたい…。  
⇒はー。腕いたい…。

(薬・4 わかば)  
(スーパーへ買い物に行っただけな編)